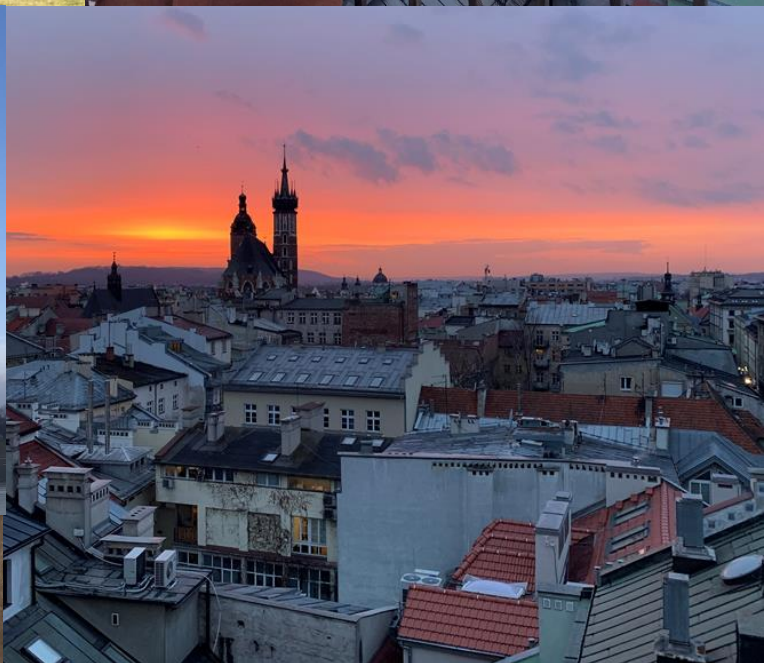
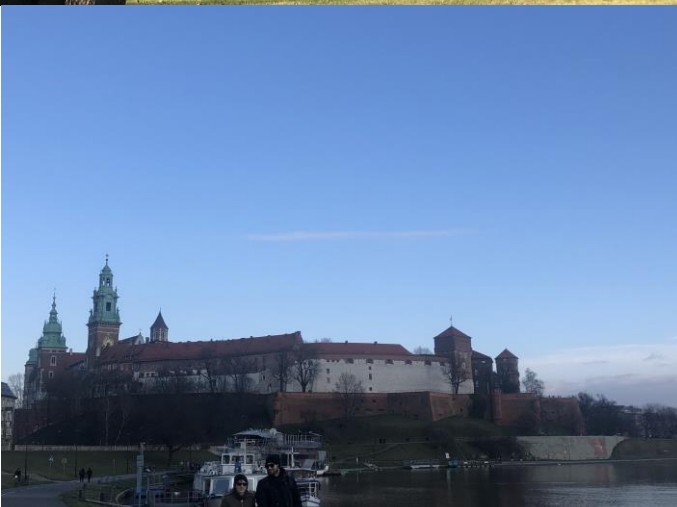


2019年度 機械系PBL ポーランド ポーランド科学技術大学





現地の学生との人数比1:1でプレゼンから日常会話、観光ガイド、食事まですべて現地学生と一緒に。ポーランドが好きになる二週間！

工学部 機械機能工学科 2年 野々村嘉人さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可

派遣先：ポーランド AGH科学技術大学

入学当初から英語が苦手でした。英語の必要性は理解しつつも日頃の学習、バイト、部活で時間がとれずに苦手を克服できないままでした。そんなときPBLプログラムの募集を見つけ英語克服のきっかけにしたいと思い参加しました。AGHを選んだのはどうせ留学するならアジアよりヨーロッパの方がいいとなという中身の無い理由でした。

滞在期間中は午前2時間ほど現地の英語講師による英語の授業を行い、午後から現地の学生とともにPBLプログラム、観光を行いました。午後から夜にかけては現地の学生と一緒に行動し、ほぼ毎日、昼食、夕食、食後のお酒を一緒にすごし1日約8時間程度は現地の学生とすごすため、現地の学生と交流が多いのが特徴です。そのため一日中英語づけなので初日は上手くコミュニケーションをとれませんでした。日がたつにつれコミュニケーションがとれるようになりました。AGHの学生はもちろん優しいのですが教授の方も優しく実験の時には僕と同じグループの日本人学生2人に対して約二時間ほど実験の原理を説明していただきました。英語で自分たちが学習したことのない分野のこともありなかなか理解できずにいましたがAGHの教授は優しく講義してくださいました。その成果があったのかは分かりませんが最優秀プレゼン賞をいただきました。

短期間のプログラムなのでプレゼンの用意などが忙しいですが毎日がすぐ過ぎていきます。だからこそ自分の語学力のなさでコミュニケーションがとれなかったことが悔しかったので英語の学習意欲が上がりました。AGHの教授、生徒はホントに優しいので英語が不安でも大丈夫です。近くに18、19世紀の町並みが残った観光地も多くありAGHの学生が案内してくれるのでお得です。実験、現地学生との交流、観光、プレゼンとすべてがつまった2週間です。参加して後悔することは無いと思います。是非参加してみてください。きっとポーランドが好きになります。



課題探求・プレゼンテーション・グループワーク・異文化交流...語学以外にも色々なことが学べます。そしてとにかく楽しい！！

工学部 機械機能工学科 2年 景山明音さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可 派遣先： ポーランド・AGH

海外への短期留学は以前から興味があり、様々なプログラムを検討していました。最終的にこのポーランドへのgPBLに決めた理由は主に二つあります。一つ目は語学に特化したプログラムよりも、それ以外の体験も幅広く出来るようなものに参加したいと思ったことで、二つ目は、ヨーロッパの文化を学びたいと感じたことです。

滞在期間中は、だいたい午前には英語の授業を受け、午後はポーランドの学生と一緒にグループワークをするといったスケジュールで動いていました。グループワークの内容は、日本の学生数人とポーランドの学生数人、合計4, 5人の班を作り、それぞれの班に課された課題について調査・編集をし、最終日のプレゼンテーションでそれを発表するというものです。もちろん、ポーランドの学生との会話やプレゼンテーションの発表は、英語で行いました。

その中で私は、英会話だけでなく、グループワークのコツや、調べ物やプレゼンテーションのスキルも学べたように感じます。また、このプログラムに参加していたポーランドの学生たちはとても親切で、私たちを毎日食事や観光に連れて行ってってくれたので、現地の文化もたくさん知ることが出来ました。休日には、みんなで世界遺産を見に行き、とても楽しかったです。

また、私は留学はささいな大切なものにたくさん気づくことが出来る体験であると感じました。例えば、発音が原因で自分の英語が伝わらなかったことで、英会話の発音の大切さに気づいたり、現地の学生に日本の文化を熱心に聞かれて、自分の国の文化を理解しておくことの大切さに気づいたり、時差ボケで睡眠の大切さに気づいたり...このようなことは、国内の学習だけでは、なかなか分かりません。留学では、これらを感じ覚を通じて学び、身につけることができます。案ずるより生むが易しです！みなさんもぜひ一度、留学を経験してみてください！！



濃密な時間を通して現地の学生ととても仲良くなれました。拙いながらも思ったことを英語で伝えられるようになりました。

工学部 機械機能工学科 2年 新田 雄真さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否 : 可 ・ 不可

派遣先: ポーランド・AGH

私は、一年生の夏にイギリスに2週間語学研修にいった経験から、もう一度海外へ行きたいと常日頃考えていました。このプログラムにした主な理由はヨーロッパであり、物価が日本の1/3程度であること、現地のポーランドの学生との交流が充実していることが挙げられます。

滞在期間中は、平日は午前中2時間の英語授業を受講し、とくに自分の意見を述べたり、テーマにそってディスカッションしたりすることで徹底的に英語で伝える力を強化していきました。また、午後にはポーランドの学生とPBLに際して与えられたテーマ(エネルギー工学系)に関して実験や意見交換を行いました。その日のプログラムが終わると毎日メンバーの現地学生とともに街に観光に出かけました。そこでの会話は英語を日常的に使うとても良い練習になりました。休日も帯同してくれて日帰りだった世界遺産アウシュビッツ強制収容所は人として大事なことを考えるまたとない機会となりました。

短期間のプログラムでしたが、得られたものはかけがえのないものです。それはTOEICスコアのアップという数値上のことのみならず、バックグラウンドの異なる友人達とどう物事を進めていくかという国際的な感性を身につけられたこと、日本とポーランド両国がかかえる工学的課題の発見など、数値化できない学びもたくさんありました。今後は、このプログラムで培った力をベースに国際社会に通用する人間となるべくより一層学業に励もうと考えています。



初の海外渡航だったが、優しい現地学生に助けられた。とても貴重な体験になった。

工学部 機械機能工学科 2年 伊藤 将成さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可

派遣先： ポーランド・AGH科学技術大学

在学中に一度は海外渡航の経験をしてみたいと思っていました。アジア圏よりも、英語が浸透している欧米への留学を希望していて、さらに単なる語学研修よりも多くを学べると思ったので、PBLのプログラムでポーランドを選択しました。

初日のWelcome Partyなどを過ごしてまず思ったことは、異質な世界に来た、大変な滞在になるという感想でした。英語でないと通じないことや、日本とまったく違う雰囲気によって圧倒されたことで緊張し、委縮していました。

しかし日を追うごとに、雰囲気に慣れたり、現地の人々のやさしさや温かい雰囲気によって、気楽な気持ちになり、英語での会話に集中できました。また、最終日のFarewell Partyでは楽しく過ごすことができました。

滞在中は、午前中に英語の授業、午後はPBL Activityとして最終目標である現地学生との共同プレゼンテーションの準備、といった過ごし方が主でした。他に、初日や最終日には上記のパーティー、実験、観光地へのフィールドトリップ、もちろん休みの日もありました。

今回の留学を振り返って、徹底的に英語を使うことができたと思います。英語の授業を除いては、ほとんどの時間を現地の学生と過ごし、常に英語を使いプレゼン、観光、食事をしました。ここまで英語を使うことや、ネイティブの英語を聞くことは、留学せずしてあり得ません。自分の実力を試すにも、振り返るにもいい機会となりました。

ポーランドは、英語を学ぶにも他の英語圏とも遜色なく、ほかのヨーロッパのどの国よりも、歴史的な街並みが美しいところでした。ぜひ行ってみてください！



AGHの学生が常に一緒にいてくれて常に英語で話していたので、語学力が向上しました。もっとAGHの学生と会話できるようになりたいと思い、語学勉強のモチベーションも上がりました。

工学部 機械機能工学科 3年 西村健太さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可

派遣先： AGH

私はもともと海外に興味がありました。そのため語学力を向上させたいと思っていて、以前にイギリスのリバプールに1か月間語学留学に行きました。そこでは基礎的な英語を学び、そこで学んだことを活かして、次のステップに進みたいと思い今回のプログラムの参加を決めました。

プログラム参加中は、常にAGHの学生と一緒にいてくれました。PBLアクティビティでは日本の学生の意見も聞いてくれながら、プレゼンなどについて話し合いができました。またPBLアクティビティ後はクラクフの案内をしてくれて、毎日夜ごはんも一緒に食べてくれました。また私はそこまで英語ができるわけではないのですが、そんな私の英語も一生懸命聞いてくれて、AGHの学生はみんな非常に優しくかったです。みんなのおかげもあり、とても楽しい時間が過ごせました。また英語のクラスも午前中にあり、そこでは基本的にプレゼンで気を付けることや、プレゼンで使える重要なキーワードを教えてください、最後のPBLのプレゼンにもとても役に立ちました。プログラム参加中は常に英語で話していたため、英語の能力が向上したと思います。

今プログラムに参加することを迷っている学生はぜひ参加したほうが良いと思います。自分の英語の能力では、英語でプレゼンなんてできないと思っている学生でも、留学先の学生がプレゼン内容やプレゼンで話すことなどを一緒に考えてくれるので、英語の能力がなくても参加できると思います。また既に十分な英語の能力を持っている学生も、留学先の学生との交流は語学力向上だけでなく、価値観の共有や文化交流などもできるので、PBLに参加することをお勧めします。

最後に、私は今回のPBLに参加してとても楽しくて濃い時間を過ごせました。もっとポーランドにいたいと思えるほど、AGHの学生とも仲良くなりました。もし迷っている学生がいたら、思い切って参加してみてください。最初の不安など消し飛ぶくらい楽しい時間を過ごせると思います。



楽しく英語を学ぶことができ、海外に友達
を作ることができました。

工学部 機械機能工学科 1年 田子碧馬さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可 派遣先： ポーランド・AGH

日頃忙しく長い間日本から海外へ渡航できない状況の中で2週間という短い間の留学であったことや自身の英語がどれだけ外国人に伝えることができるのかを試したいと思い参加を決定しました。

向こうではAGHの学生の方々と多くコミュニケーションをとる機会があり、私の片言の英語を聞き取っていただいたり、私が聞き取れるスピードまで話す速さを調整していただいたりコミュニケーションが取れないという心配もなくとても充実した留学ができました。留学というと、大学に行って授業だけをするという印象があったのですが授業だけでなく、現地の学生の方々のおすすめの観光スポットを案内していただいたり、ポーランドの伝統的な手べ物を紹介してもらったりといったアクティビティもありとても楽しい毎日を過ごすことができました。また、ポーランドの食事はとてもおいしく、食事の観点においても不自由なく充実していました。

今回のPBLでは、日本では経験できないような長い間毎日英語を話すことができ、相手に自分の言いたいことや意見が英語で言えたり、逆に相手の話す英語が聞き取れて理解できる確な返答ができたりすると、とても英会話が楽しく感じ、よりいろいろなことを英語で話合いたいと思うようになり意欲的に話しかけることができるようになりました。これは、自身の英会話のスキルアップにつながるだけでなく、英語で会話できるという自信にもつながりました。今後、自身の生活に大きく余裕ができればより長い期間の留学に行きたいと考えています。